

科目名	基礎演習 I		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50004		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	奥野 武志			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 借り物でない自分の言葉で語るとはどういうことか。借り物でない自分の言葉で語っているテキストを味読しながら、疑問について議論し気づきを言語化する作業をくり返すことによって大学での学びを基礎をつくることを目指す。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5・7・8に関連し、カリキュラムポリシーの5・7・8に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 借り物でない自分の言葉で語るとはどういうことか理解する。 2) 他人の考え（研究成果）と自分のオリジナルな考えをきちんと分けて示すことができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			・本授業の目的・概要について説明						
第2回	第1章	どうして勉強するの？ (1)		はじめに～どうして勉強しなければいけないのか						
第3回	第1章	どうして勉強するの？ (2)		「もっと勉強したい」から「こんなに勉強したくない」へ～教室は偉大な発明だった						
第4回	第1章	どうして勉強するの？ (3)		教室が発明される前の「教室」～試験はドキドキ、ハラハラ						
第5回	第2章	試験の秘密 (1)		試験のルール～試験のやり方は教わるもの						
第6回	第2章	試験の秘密 (2)		ルールを知らないと試験はどうなるか～二四時間試験の恐怖						
第7回	第2章	試験の秘密 (3)		公平と比較～さまざまな時間						
第8回	第2章	試験の秘密 (4)		学校とは名前を書くところ～見られていないのに見られている関係						
第9回	第3章	校則はなぜあるの？ (1)		中学生になったら～制服をなぜ着るの？						
第10回	第3章	校則はなぜあるの？ (2)		「非行の芽」～校則の根拠						
第11回	第3章	校則はなぜあるの？ (3)		力の関係～教科書にのる知識とは？						
第12回	第4章	教科書って何だろう (1)		学校で教える知識の決め方～地域ごとの教育						
第13回	第4章	教科書って何だろう (2)		ナショナル・カリキュラム～ばらつきの少ない教育						
第14回	第4章	教科書って何だろう (3)		画一教育とナショナル・カリキュラム						
第15回	第4章	教科書って何だろう (4)		教科書の知識は役に立つのか～授業中に何を習うのか						
授業方法(ゼミナール、グループワーク等)	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	リフレクションシート							
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・報告の充実度 : 40% ・振り返りの充実度 : 40% ・ディスカッションへの参加度 : 20%</p>									
課題等	<p>・テキストを読み進めていく上で浮かぶ疑問を積極的に出し合い、その場で議論する。 ・振り返りはteamsを通じて提出する。</p>									
事前事後学修	<p>・事前学修：テキストの分からない言葉を調べておく。 ・事後学修：授業を受けて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。</p>									
教材教科書参考書	<p>・教科書 苅谷剛彦『学校って何だろう 教育の社会学入門』ちくま文庫、2005年。(ISBN:978-4480421579)</p>									
留意点	<p>授業計画はあくまで予定である。議論の充実を優先するため、進度や内容は変わることがある。</p>									

科目名	基礎演習 I (2限目)		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50001		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 「論理的な思考法 (<i>logical thinking</i>)」を身に付けて、大学4年間における学修の基礎力を養う。これは同時に将来の入社試験、あるいは公務員試験(判断推理分野)対策としても役立つはずである。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5・7・8に関連し、カリキュラムポリシーの5・7・8に関連している。</p>									
到達目標	言葉と言葉の「接続関係」、「推測」、「演繹」について正しく理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	言葉と言葉の「接続関係」			「接続関係」とはなにか						
第3回	「解説」と「根拠」			「解説」、「根拠」の接続表現を使いこなす						
第4回	「付加」と「転換」			「付加」、「転換」の接続表現を使いこなす						
第5回	「接続関係」のまとめ			これまでのポイントを練習問題を解いて確認する						
第6回	「接続構造」			「接続構造」を図で表現する						
第7回	指示関係			指示されていることを明示する						
第8回	まとまった文章の分析			文章全体を通読して、その構造を図で表現する						
第9回	議論の組み立て			議論を始める際に注意すべきこと						
第10回	主題、問題、主張			左記3項の意味を理解する						
第11回	論証の構造と評価			論証を評価する練習を行う						
第12回	論証構造の分析と評価			論証構造を分析する練習を行う						
第13回	演繹と推測			演繹と推測との違いを理解する						
第14回	仮説形成			仮説形成で注意すべき点						
第15回	まとめ			全体のまとめ						
授業方法(ゼミナール、PBL等)	PBL(問題解決型学習)			まとめアクティビティ						
評価方法及び評価基準	各種課題(50%)と期末試験(50%)。期末試験(接続表現、論証図、演繹と推測の区別等について)の評価は解答の正否によって行う。									
課題等	授業は各自の「作業」が中心となる。提出された課題は翌週に返却。									
事前事後学修	毎週課題が出される。要する時間は3時間程度。									
教材教科書参考書	『新版 論理トレーニング』(野矢茂樹、産業図書、本体2200円、ISBN978-4-7828-0211-3)									
留意点	一回でも休むと理解が難しくなるので休まないこと。									

科目名	基礎演習 I (3限目)		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50002		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】          高等学校までの学習内容（日本語、基礎演算、時事・一般常識）を総復習し、大学4年間の学びの基礎、土台作りとする。また、社会人として必須の表現力も養成する。          【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】          ディプロマポリシーの5・7・8に関連し、カリキュラムポリシーの5・7・8に関連している。</p>									
到達目標	上記3分野について、「技能・知識」を一層獲得し、「思考力・表現力」をより高める。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		授業の進め方							
第2回	日本語能力レッスン		自己紹介する、論説文を読む							
第3回	日本語能力レッスン②		論説文を読む②							
第4回	日本語能力レッスン③		本の紹介文を書く							
第5回	日本語能力レッスン④		短いレポートを作成する							
第6回	日本語能力レッスン⑤		短いレポートを作成する②							
第7回	基礎演算レッスン		簡単な計算問題を解く							
第8回	基礎演算レッスン②		簡単な計算問題を解く②							
第9回	基礎演算レッスン③		簡単な計算問題を解く③							
第10回	時事・一般常識レッスン		時事問題の傾向と対策							
第11回	時事・一般常識レッスン②		就職試験にチャレンジ							
第12回	時事・一般常識レッスン③		就職試験にチャレンジ②							
第13回	時事・一般常識レッスン④		就職試験にチャレンジ③							
第14回	時事・一般常識レッスン⑤		就職試験にチャレンジ④							
第15回	まとめ		全体のまとめ							
授業方法(アクティブラーニング等)	PBL (問題解決型学習)		発表、ポスター作成							
評価方法及び評価基準	各種課題 (50%) と期末試験 (50%)。期末試験の評価は、試験解答の正否によって行う。									
課題等	毎週一定量の課題が出される。									
事前事後学修	3時間程度の準備が必要。									
教材教科書参考書	『2027年度版最新！SPI 3 [完全版]』(高橋書店、1540円、ISBN978-4471441159)									
留意点	特になし									

科目名	基礎演習 I		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50007		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	井上 裕太				授業 形態	演習	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 「話す」を主たるテーマに、コミュニケーションの場において、伝えたいことを誰に対しても正確に伝えられる能力を磨く。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5・7・8に関連し、カリキュラムポリシーの5・7・8に関連している。</p>									
到達目標	文章表現の基本を身に付けた上で、他者に自らの意見を分かりやすく説明するための論理的思考力を養う。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	プレゼンテーションについて（1）			自己紹介を通じ、物事を分かりやすく説明する方法について考える。						
第3回	プレゼンテーションについて（2）			パワーポイントの操作やプレゼン発表する上でのノウハウについて学習する。						
第4回	プレゼンテーションについて（3）			プレゼンの実例を紹介し、実践的な内容について学習する。						
第5回	資料の調べ方			図書館で図書資料の探し方について学習する。						
第6回	ディスカッションについて			ディスカッションについて学習・実践し、様々な立場から物事について考える。						
第7回	ディベートについて			ディベートについて学習・実践し、説得力のある意見のまとめ方について考える。						
第8回	プレゼン発表（1）			パワーポイントを用いたプレゼン発表を行い、他者を評価する。						
第9回	プレゼン発表（2）			パワーポイントを用いたプレゼン発表を行い、他者を評価する。						
第10回	日本語の文章表現（1）			対義語・類義語・慣用句など、基本的な文章表現について学習する。						
第11回	日本語の文章表現（2）			手紙の書き方や敬語の使い方など、基本的な文章表現について学習する。						
第12回	日本語の文章表現（3）			文学作品について学習し、教養の基盤を広げる。						
第13回	思考力の基盤醸成（1）			作品鑑賞を通じ、自らの意見を論理的に発表する。						
第14回	思考力の基盤醸成（2）			作品鑑賞を通じ、自らの意見を論理的に発表する。						
第15回	試験、まとめ			試験と総括を行う						
授業方法(予 め、7月 ア・ラニ 等)	グループワーク	ディベート	発表、ポスター作成	リフレクションシート	クイズ、小テスト					
評価方法 及び 評価 基準	授業への参加度（30%）、プレゼン発表（30%）、試験（40%）により総合的に評価する。									
課題等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。 課題については、授業中に適宜指示する。									
事前事後学修	授業の内容を復習すること。									
教材 教科書 参考書	<p>【参考書】戸田山和久『最新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK出版、2022、978-4-14-091272-0（購入して下さい） 【参考書】加藤瑞貴『大学生のためのレポート・卒論で困らない ワード/パワポ/エクセルのコツ』秀和システム、2020、978-4-7980-6314-0（あくまで参考のため、購入しなくても授業に支障ありません）</p>									
留意点	授業に積極的に参加し、発言すること。									

科目名	基礎演習 I		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50008		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	小橋 玲治			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 前期は高校までの学びのあり方と大学以降に社会から求められる能力との違いを認識した上で、特に大学で学ぶことのできる資料や文章作成のための土台作りをする。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5・7・8に関連し、カリキュラムポリシーの5・7・8に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 資料の集め方や、そのための図書館の使い方を学ぶ。 2 大学生活を営んでいく上で必要なパワーポイントの作り方や文章作成方法を学ぶ。 3 自身が授業を通して学んだことをアウトプットできるようになる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	自己紹介から他己紹介へ			授業前に自分の好きなもの、好きなことを3つ出しておいください。						
第2回	相手に伝わることを目指す			自分の考えが相手に正しく効果的に伝わるように説明する。 「NHK高校講座 現代の国語」の指定回を事前に視聴しておく。						
第3回	「比較」という方法			山崎正和「水の東西」 「NHK高校講座 現代の国語」の指定回を事前に視聴しておく。						
第4回	「問い」を立てる			塚谷裕一「スキマが育む都市の緑と生命のつながり、イソップ「三頭の牛とライオン」 「NHK高校講座 現代の国語」の指定回を事前に視聴しておく。						
第5回	情報を正しく見極める			メディアとしての自分 「NHK高校講座 現代の国語」の指定回を事前に視聴しておく。						
第6回	論理的に説明する			三角ロジック 「NHK高校講座 現代の国語」の指定回を事前に視聴しておく。						
第7回	大学図書館でできること/できないこと			図書資料の探し方と利用可能なデータベースを把握する。						
第8回	大学生としての資料作成能力 (1)			「調べ学習」との違い、引用と剽窃の違い。						
第9回	大学生としての資料作成能力 (2)			パワーポイントでの資料作成やプレゼンについて学ぶ。						
第10回	大学生としての資料作成能力 (3)			「レジュメ」について、文章の図式化。						
第11回	大学生としての文章作成能力 (1)			日本語の文章としてのルールを学ぶ。						
第12回	大学生としての文章作成能力 (2)			メールでレポートの提出を行う場合に印象を下げない方法。						
第13回	パワーポイントで実際に発表してみる (1)			パワーポイントを用いた発表を行う。						
第14回	パワーポイントで実際に発表してみる (2)			パワーポイントを用いた発表を行う。						
第15回	まとめ			まとめ						
授業方法(注1) ディプロマ ポリシー等)	グループワーク	ディベート	発表、ポスター作成	理解度チェック						
	NHK for schoolの番組（10～20分程度）を利用した反転授業を一部取り入れている。									
評価方法 及び 評価 基準	授業への参加度（30%）、パワーポイントでの発表（30%）、課題提出物（40%）									
課題等	Microsoft Forms等を用いて課題を提出、次回冒頭にフィードバックする。									
事前事後学修	第1～6回に関しては、指定する「NHK高校講座 現代の国語」を事前に見ていることを前提で進めていく（第1回のみ授業中に鑑賞）。その視聴時間も含め、週3時間の授業外学修が必要である。									
教材 教科書 参考書	適宜資料を配布する。									
留意点	特に前半では学生同士で協力してもらう機会が多い。									

科目名	基礎演習 I		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50006		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	山本 尚樹			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】          広い意味での「心」を題材にしながら、文章読解、執筆、口頭発表、ディスカッションやグループワークなどを行うことで、大学4年間における学習の基礎力を養う。          【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】          ディプロマポリシーの5・7・8に関連し、カリキュラムポリシーの5・7・8に関連している。</p>									
到達目標	<p>①文章読解、文章執筆、発表、ディスカッションなど大学の学びの基礎的なスキルを身につける。          ②「こころ」に関して多面的に捉える視点を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	ガイダンス		授業の進め方、留意点							
第2回	自己紹介		自己紹介文の作成と発表						PBL	
第3回	身体で考え伝える（1）		身体をつかったワークショップを行う（1）						PBL	
第4回	身体で考え伝える（2）		身体をつかったワークショップを行う（2）						PBL	
第5回	身体で考え伝える（3）		身体をつかったワークショップを行う（3）						PBL	
第6回	頭で考え伝える（1）		文献調査とレポート執筆（1）						PBL	
第7回	頭で考え伝える（2）		文献調査とレポート執筆（2）						PBL	
第8回	頭で考え伝える（3）		文献調査とレポート執筆（3）						PBL	
第9回	頭で考え伝える（4）		文献調査とレポート執筆（4）						PBL	
第10回	頭で考え伝える（5）		成果発表						PBL	
第11回	みんなで調べて伝える（1）		大学構内フィールドワーク（1）						グループワーク、 フィールドワーク	
第12回	みんなで調べて伝える（2）		大学構内フィールドワーク（2）						グループワーク、 フィールドワーク	
第13回	みんなで調べて伝える（3）		大学構内フィールドワーク（3）						グループワーク、 フィールドワーク	
第14回	みんなで調べて伝える（4）		大学構内フィールドワーク（4）						グループワーク、 フィールドワーク	
第15回	みんなで調べて伝える（5）		成果発表						グループワーク、 フィールドワーク	
授業方法(付 属資料、77頁 参照)	PBL（問題解決型 学習）	グループワーク	実習、フィールドワー ク	発表、ポスター作成						
評価 方法 及び 評価 基準	平常点（授業の参加態度、課題への取り組み）40%、課題提出物60%									
課題 等	3つ程度の大きな課題を出す、その経過で順次作業が生じる。授業内で指示するので確実にこなすこと。									
事前 事後 学修	事前の調査や課題は毎回の授業内で指示する。									
教材 教科書 参考書	適宜プリントを配布する。									
留意 点	この授業では他の学生とのディスカッションや人前での発表などはそれなりにあるので、そのつもりで履修すること。									

科目名	基礎演習Ⅱ		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50014		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	奥野 武志			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 借り物でない自分の言葉で語るとはどういうことか。借り物でない自分の言葉で語っているテキストを味読しながら、疑問について議論し気づきを言語化する作業をくり返すことによって大学での学びを基礎をつくることを目指す。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5・7・8に関連し、カリキュラムポリシーの5・7・8に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 借り物でない自分の言葉で語るとはどういうことか理解する。 2) 他人の考え（研究成果）と自分のオリジナルな考えをきちんと分けて示すことができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			・本授業の目的・概要について説明						
第2回	第5章 隠れたカリキュラム (1)			時間を守る～コミュニケーションのしかた						
第3回	第5章 隠れたカリキュラム (2)			学校と隠れたカリキュラム～自分の位置						
第4回	第5章 隠れたカリキュラム (3)			学年と年齢～学校と社会						
第5回	第6章 先生の世界 (1)			もうひとりの主人公～教師本来の仕事						
第6回	第6章 先生の世界 (2)			生徒を理解する仕事～社会からの期待						
第7回	第6章 先生の世界 (3)			限りない期待～学校の責任と教師						
第8回	第6章 先生の世界 (4)			疲れる先生～自分たちのこと						
第9回	第7章 生徒の世界 (1)			「アイデンティティ」～「生徒であること」・「自分であること」						
第10回	第7章 生徒の世界 (2)			生徒としての人間関係～もうひとつの「ひとりひとり」						
第11回	第7章 生徒の世界 (3)			「みんないっしょ」と「ひとりひとり」の対立～生徒の演じ方						
第12回	第7章 生徒の世界 (4)			ムカつく・キレる～仲間外れの恐怖						
第13回	第8章 学校と社会のつながり (1)			「学歴社会」と学校～学歴は有効か						
第14回	第8章 学校と社会のつながり (2)			大学の違い～肩書きだけでは通用しない						
第15回	第8章 学校と社会のつながり (3)			「生まれ」と学歴～世界の中の日本の中学生						
授業方法(レポート、プレゼン等)	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	リフレクションシート							
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・報告の充実度 : 40% ・振り返りの充実度 : 40% ・ディスカッションへの参加度 : 20%</p>									
課題等	<p>・テキストを読み進めていく上で浮かぶ疑問を積極的に出し合い、その場で議論する。 ・振り返りはteamsを通じて提出する。</p>									
事前事後学修	<p>・事前学修：テキストの分からない言葉を調べておく。 ・事後学修：授業を受けて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。</p>									
教材教科書参考書	<p>・教科書 荻谷剛彦『学校って何だろう 教育の社会学入門』ちくま文庫、2005年。(ISBN:978-4480421579)</p>									
留意点	<p>授業計画はあくまで予定である。議論の充実を優先するため、進度や内容は変わることがある。</p>									

科目名	基礎演習Ⅱ(2限目)		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50011		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 「論理的な思考法 (<i>logical thinking</i>)」を身に付けて、大学4年間における学修の基礎力を養う。これは同時に将来の入社試験、あるいは公務員試験(判断推理分野)対策としても役立つはずである。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5・7・8に関連し、カリキュラムポリシーの5・7・8に関連している。</p>									
到達目標	<p>前期の学修内容を踏まえて、主に「演繹」についての理解を深める。また、「SPI(非言語分野)」の問題も解けるように訓練する。そして最後に、自分でテーマを設定し小論文作成の練習を行い、これに基づいてプレゼンテーションも行う。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	ガイダンス			前期学修項目の復習						
第2回	価値評価			価値評価のパターン						
第3回	価値評価の論証構造			構造図をつくる						
第4回	否定			否定の概念を正しく理解する						
第5回	連言文と選言文			左記についてのド・モルガンの法則を理解する						
第6回	全称文と存在文			左記についてのド・モルガンの法則を理解する						
第7回	条件構造			様々な文章から条件構造を読み取る						
第8回	条件連鎖			条件連鎖をつくる練習を行う						
第9回	存在文			「推論の技術」として存在文の扱いを学ぶ						
第10回	消去法			「推論の技術」として消去法を学ぶ						
第11回	背理法			「推論の技術」として背理法を学ぶ						
第12回	立論、異論、批判			左記3概念を理解する						
第13回	小論文を書く			各自の主題設定で小論文を書く						
第14回	小論文の組み立て、推敲			組み立て方と推敲の仕方について						
第15回	まとめ			全体のまとめ						
授業方法(注1) PBL(問題解決型 学習)	発表、ポスター作成			理解度チェック						
評価方法 及び 評価 基準	各種課題(50%)と期末試験(50%)。期末試験(ド・モルガンの法則、演繹のパターン等について)の評価は解答の正否によって行う。									
課題等	授業は各自の「作業」が中心となる。提出された課題は翌週に返却。									
事前事後学修	毎週課題が出される。要する時間は3時間程度。									
教材 教科書 参考書	『新版 論理トレーニング』(野矢茂樹、産業図書、本体2200円、ISBN978-4-7828-0211-3)									
留意点	一回でも欠席すると理解困難になる。									

科目名	基礎演習Ⅱ(3限目)		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50012		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	鎌田 学				授業 形態	演習	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 例えば、自分でテーマを設定し小論文を作成、これに基づいてプレゼンテーションを行う等、前期学修を踏まえて、各分野の能力をトータルに高める。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの5・7・8に関連し、カリキュラムポリシーの5・7・8に関連している。</p>									
到達目標	日本語、基礎演算、時事・一般常識の分野について、「技能・知識」を一層獲得し、「思考力・表現力」をより高める。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	日本語能力レッスン			テーマを設定し、小論文を作成する						
第3回	日本語能力レッスン②			テーマを設定し、プレゼンテーションする						
第4回	日本語能力レッスン③			テーマを設定し、グループディスカッションを行う						
第5回	日本語能力レッスン④			論説文を平易な言葉で解説する						
第6回	日本語能力レッスン⑤			論説文を平易な言葉で解説する②						
第7回	基礎演算レッスン			公務員試験レベルの計算問題を解く						
第8回	基礎演算レッスン②			公務員試験レベルの計算問題を解く②						
第9回	基礎演算レッスン③			公務員試験レベルの計算問題を解く③						
第10回	基礎演算レッスン④			公務員試験レベルの計算問題を解く④						
第11回	基礎演算レッスン⑤			公務員試験レベルの計算問題を解く⑤						
第12回	時事・一般常識レッスン			公務員試験にチャレンジ						
第13回	時事・一般常識レッスン②			公務員試験にチャレンジ②						
第14回	時事・一般常識レッスン③			公務員試験にチャレンジ③						
第15回	まとめ			全体のまとめ						
授業方法(付 属資料、PBL 等)	PBL(問題解決型 学習)			発表、ポスター作成						
評価 方法 及び 評価 基準	各種課題(50%)と期末試験(50%)。期末試験の評価は、試験解答の正否によって行う。									
課題 等	毎週一定量の課題が出される。									
事前事 後学修	3時間程度の準備が必要。									
教材 教科書 参考書	『2027年度版最新!SPI3[完全版]』(高橋書店、1540円、ISBN978-4471441159)									
留意 点	なし									

科目名	基礎演習Ⅱ		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50017		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	井上 裕太				授業 形態	演習	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>「書く」を主たるテーマに、論文・レポートの書き方について学習し、説得力のある文章表現を磨く。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5・7・8に関連し、カリキュラムポリシーの5・7・8に関連している。</p>									
到達目標	論文・レポートを書けるようにする。特に、文章構成や引用方法に関する知識を正しく身に付ける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		授業の進め方							
第2回	文章を書く上での基本事項		辞書の使い方、剽窃の防止など、文章を書く上での基本事項を学ぶ。						反転学習	
第3回	問い・主張・論証		説得力のある論文を書くための問いの設定、明確な答えの主張、根拠を明示しての論証について学ぶ。						反転学習	
第4回	論文を書く上での事前準備		課題の趣旨を理解した文章への取り組み方や調査方法について学習する。						反転学習	
第5回	論文の構成要素		論文の構成要素を把握し、特にアブストラクトの書き方について学習する。						反転学習	
第6回	アウトライン		アウトラインを書く上での要点や、問いの立て方について、実践的に学習し、体得する。						反転学習	
第7回	論証の具体		モードゥス・ポネンス、モードゥス・トレンス、構成的ディレンマ、背理法、帰納的論証、アブダクション、仮説演繹法、アナロジーなど、様々な論証形式について学習する。						反転学習	
第8回	パラグラフ		パラグラフの内部構造について理解し、論理的つながりのある文章の書き方について学ぶ。						反転学習	
第9回	言葉の選び方		明快な文章にするための言葉の選び方について学習する。						反転学習	
第10回	註、引用、参考文献		註、引用、参考文献など、文章を仕上げる上で必要な事柄について学習する。						反転学習	
第11回	論文を読む（1）		実際に論文を読み、文章の構成について学ぶ。							
第12回	論文を読む（2）		実際に論文を読み、文章の構成について学ぶ。							
第13回	レポート発表（1）		学習した内容を踏まえてレポートを発表する。また、他者の発表を評価する。							
第14回	レポート発表（2）		学習した内容を踏まえてレポートを発表する。また、他者の発表を評価する。							
第15回	まとめ		授業の総括。							
授業方法(他 ゼミナール、 グループワーク 等)	グループワーク	発表、ポスター作成	リフレクションシート							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度（30%）、レポート課題（70%）により総合的に評価する。									
課題 等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。 課題については、授業中に適宜指示する。									
事前 事後 学修	事前学修していることを前提に授業を進めるため、必ず予習を行うこと。									
教材 教科書 参考書	【教科書】戸田山和久『最新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK出版、2022、978-4-14-091272-0（購入して下さい）									
留意 点	授業に積極的に参加し、発言すること。									

科目名	基礎演習Ⅱ		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50018		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	小橋 玲治				授業 形態	演習	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの5・7・8に関連し、カリキュラムポリシーの5・7・8に関連している。</p>									
到達目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(ゼミナール・7対7対抗・ブレインリング等)										
評価方法及び評価基準										
課題等										
事前事後学修										
教材教科書参考書										
留意点										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50016		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	山本 尚樹			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】          広い意味での「心」を題材にしなが、問いを立て、リサーチを行い、結果を分析し、発表するという科学的な営みの入り口を体験してみる。          【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】          ディプロマポリシーの5・7・8に関連し、カリキュラムポリシーの5・7・8に関連している。</p>									
到達目標	<p>①文章読解、文章執筆、発表、ディスカッションなど大学の学びの基礎的なスキルを身につける。          ②「こころ」に関して科学的に捉える初歩的な視点を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業全体の進め方、留意点						
第2回	心理学のテキストを読む（A1）			広義の心に関するテキストを輪読する。					ディスカッション	
第3回	心理学のテキストを読む（A2）			広義の心に関するテキストを輪読する。					ディスカッション	
第4回	リサーチの計画（A）			輪読したテキストの内容をもとにリサーチを計画する。					PBL	
第5回	リサーチの実施（A）			計画に基づきリサーチを行う。					PBL	
第6回	結果の分析（A）			教員の指導のもとリサーチの結果をまとめる。					PBL	
第7回	発表（B）			リサーチの結果をスライド資料にまとめ発表する。					PBL	
第8回	心理学のテキストを読む（B1）			広義の心に関するテキストを輪読する。					ディスカッション	
第9回	心理学のテキストを読む（B2）			広義の心に関するテキストを輪読する。					ディスカッション	
第10回	心理学のテキストを読む（B3）			広義の心に関するテキストを輪読する。					ディスカッション	
第11回	リサーチの計画（B）			輪読したテキストの内容をもとにリサーチを計画する。					PBL	
第12回	リサーチの計画・実施（B）			リサーチの計画を行い、実施する。					PBL	
第13回	リサーチの実施（B）			計画に基づきリサーチを行う。					PBL	
第14回	結果の分析（B）			教員の指導のもとリサーチの結果をまとめる。					PBL	
第15回	発表（B）			リサーチの結果をスライド資料にまとめ発表する。					PBL、発表	
授業方法(他 ディプロマ ポリシー等)	PBL（問題解決型 学習）	グループワーク	実習、フィールドワー ク	発表、ポスター作成						
評価 方法 及び 評価 基準	平常点（授業の参加態度、課題への取り組み）40%、課題提出物60%									
課題 等	リサーチ課題を出す、その経過で順次作業が生じる。授業内で指示するので確実にこなすこと。									
事前 事後 学修	事前の調査や課題は毎回の授業内で指示する。									
教材 教科書 参考書	適宜プリントを配布する。									
留意 点	リサーチはグループワークで行う予定である。なお、受講者の理解の度合いなどに合わせて授業進行は調整する。									